

有識者意見の概要及び意見に対する対応（内部整理用）

1. 調査研究課題名 情報化社会の進展と建設産業のあり方に関する研究	
2. 有識者意見の概要及び対応 有識者（早稲田大学アジア太平洋研究センター 椎野 潤 教授 ）	
意見の概要	意見に対する対応
<p>(1) 研究全体としては、よくまとまっている。</p> <p>(2) 建設市場の縮小方向は、長期的には続く傾向であろう。但し、これは日本経済の成熟とも考えられる。建設産業が供給過剰な状況にあることは指摘のとおりだが。しかし就業者数の増加等は失業対策の結果である。さらに失業対策として建設産業が救済する対象は、建設産業でしか救済できない労働層であることも事実。今後、このような層をどのような方法で救済するか、検討が必要であろう。</p> <p>(3) 建設産業の生産システムは、不透明なところが多く、その結果無駄なコストが増えるという構造をもっている。逆にいえば、透明性を高めることは、無駄なコストの削減につながり、ITの活用が役立つという研究の視点は合っている。さらに加えれば、ITで新たな仕事、雇用を創出することが必要である。</p> <p>(4) 注目すべき変化として、資金調達等の変化を挙げているが、この視点は建築系の技術者には持ちづらい視点であり、良い視点だと思う。経営の視点として、総資産もしくは担保価値</p>	<p>(意見に対して対応する・した内容があった場合に記載する。)</p>

有識者意見の概要及び意見に対する対応（内部整理用）

のあるものから、キャッシュフローへの変化、より身軽な経営は今後の建設業に必要であろう。アカウントビリティについては、良い製品を作っている、または作る技術があることを説明できなくてはいけないとの意見や、これらを説明する仕組みが必要との考えには同感である。

（５）IT が建設業の経営において、コストダウン、競争性につながり、その効果として、透明性が向上し、アカウントビリティが高まるとの分析結果は、よく研究していると感じられる。